

2013 年 6 月 11 日

薄井一議 写真展「Showa88／昭和 88 年」

東京工芸大学 写大ギャラリーにて開催

東京工芸大学 写大ギャラリー（所在地：東京中野区）では、2013 年 6 月 15 日（土）から 8 月 8 日（木）まで、薄井一議 写真展「Showa88／昭和 88 年」を開催します。

本年 2013 年は、もし「昭和」という年号が続いていたとすれば「昭和 88 年」にあたります。本展は、写真家 薄井一議が、もし「昭和」という時代がまだ続いていたら？という架空の時間軸に基づいて制作された写真展です。

「昭和」という時代は、太平洋戦争や戦後の高度経済成長など、日本が大きく変化を遂げた激動の時期でした。「昭和」が終わって 20 余年が経った現在、「昭和」という言葉の響きには、すでにノスタルジーやレトロなニュアンスが漂ってきています。

とりわけ震災以降、先行きが混沌とする 21 世紀の現代において、「昭和」という時代に対して郷愁を感じる日本人は多いでしょう。それは、戦後復興や経済成長といった当時の日本人の活力への憧れや、高度にネットワーク化されグローバル化した現代では失われつつある生活習慣や風俗への懐かしさのようなものかもしれません。

今回の作品で薄井は、大阪の飛田新地、京都の五条楽園、千葉の栄町など、過去の歴史と生の営みを色濃く感じさせる歓楽街や、恐山など古来の信仰がある聖地、あるいは多くの死と直面した東北の被災地などを撮影地に選び、そこに現実と虚構を緻密に入れ込みながら、「昭和 88 年」の日本を、強烈なインパクトのある世界へと描きだしています。

その世界は、人工的ないかがわしさや、毒々しいまでの色彩に満ち溢れていますが、どこか人間臭くもあり、生への濃密な欲望のような感覚を呼び覚まします。

それは、現代とは別の時空の物語のようでありながら、実は、平成の「いま」という時代にも通底する、日本人の精神風土までも鮮やかに捉えているのではないのでしょうか。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

東京工芸大学 学事部広報課

電 話：046-242-9600／FAX046-242-9638

担 当：林・栗原

e-mail：university.pr@office.t-kougei.ac.jp

〔作家略歴〕

薄井一議（うすい かずよし）

1975 年東京生まれ。1998 年東京工芸大学芸術学部写真学科卒業後、大手広告代理店に入社し、数多くの広告写真を手がける。2013 年よりフリーランスで写真家として活動を始める。

個展

1999 年「マカロニキリシタン」 コニカミノルタプラザ／東京

2011 年「Showa 88 / 昭和 88 年」ZEN FOTO GALLERY／東京

グループ展

1997 年「サンマリノ・インターナショナル・フォトミーティング」／サンマリノ共和国

2000 年「HUMANSCAPE」清里フォトアートミュージアム／山梨

2003 年「20 代写真家の挑戦 IN&OUT」東京都写真美術館／東京

2009 年「Editors' Choice」リコーリングキューブ／東京 など多数。

写真集

1996 年『マカロニキリシタン』（美術出版社）

2011 年『Showa88/昭和 88 年』（ZEN FOTO GALLERY）

受賞

1999 年 フジフォトサロン新人賞 / 奨励賞受賞

2006 年 APA アワード（広告作品部門）/ 最優秀賞受賞

2011 年 APA アワード（広告作品部門）/ 優秀賞

タイトル : 薄井一議 写真展「Showa88／昭和 88 年」

会 期 : 2013 年 6 月 15 日(土) ～ 2013 年 8 月 8 日(木) 10:00 ～ 20:00

会期中無休・入場無料

会 場 : 写大ギャラリー（東京工芸大学・中野キャンパス内）

〒164-8678 中野区本町 2-4-7 芸術情報館 2F

TEL 03-3372-1321（代）

地下鉄丸ノ内線／大江戸線 中野坂上駅下車 1 番出口・徒歩 7 分

主 催 : 東京工芸大学芸術学部

展示作品 : 80cm×100cm 大型カラープリント作品 約 20 点

ギャラリートーク : 2012 年 7 月 20 日(土) ＊詳細はお問い合わせ下さい。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

東京工芸大学 学事部広報課

電 話 : 046-242-9600 / FAX046-242-9638

担 当 : 林・栗原

e-mail : university.pr@office.t-kougei.ac.jp